

タイ仏教の変遷と

タンマガーイ寺院インターナショナル瞑想センターを訪ねて

遠藤了義

タイ王国は仏教の国、一三世紀のスコータイ王国発祥から今日に至るまで仏教が篤く信仰され、国の根幹を成してきた。国土は日本の一・五倍、寺院は三万ヶ所、六三〇〇万人の人口の内、三〇万人の僧侶がおり国民の九五%が仏教徒であった。

しかし現在では、タイ北部(チェンマイ方面)はキリスト教徒の増加、南部(ブーケット方面)はイスラム教徒の増加で仏教徒は国民の七五%。三〇万人いた僧侶も二〇万人と減少した。一生に一度は出家する風習も必ずしもそうでは無くなり寺院住職の高齢化や説法も出来ず。経済成長にともない国民の目が寺院や僧侶に魅力を感じなくなってきた。

だが、まだまだ信仰心は厚く女性のペンダントに高僧の像や写真を入れ車にもお守りとして寺院や高僧の像を運転席に飾っている。

タイ国仏教(上座部・小乗仏教)も戒律を守り自己の修行をするだけでは国民の信仰も薄れつつある。

筆者は平成一七年にタイ・バンコク郊外のタンマガーイ寺院を初めて訪れたが、その折には、日蓮宗の僧侶では、あなたが初めてであると云われた。

その後、平成二一年頃より、高橋堯英先生、三友健容先生や卒業生数人が立正大学より短期出家(三週間ほど)を、

この寺院でしている。

私が訪れた頃は、一〇〇万坪もあるかと思われる境内（一〇万坪は四〇年前の設立の折、篤信者より寄付を受けている）に三〇万人はいるドームを持ち一〇〇万人入るドームを建設中であったが、現在はほとんど完成間近にある。本年二月まで、三回ほど瞑想の指導を受けたが、現在この寺院には僧侶一、〇〇〇人（内二〇〇は沙弥）スタッフ一、〇〇〇人居るといふ。

この寺院のNO2の地位にあるターナヴィット比丘（東大大学院卒）は、平成二二年お逢いした折、イスラム教の脅威を語っていた。

釈尊は瞑想により悟りを開かれたのだ。国や宗派を越えて仏教徒として共生していかねばならないと語る。

国際部翻訳課のソムキャット比丘（東大卒）は、平成二二年六月一八日、立正大学で仏教学部学生に講演を行ったが、その折、学生より寺院や僧侶に魅力を感じられないから人が集まらない等々の質問があったが、タイもそうなりつつあり、自己の修行のみと、人の来るのを待っているだけでは仏教は滅びていく。社会活動をし説法をしなければダメであると云う。

問題は、その人の心にある。布施する心を何に使うかによって布施をしてくれる。瞑想、説法、布施が役に立つ、布施する事で力をもらえるのであると語った。

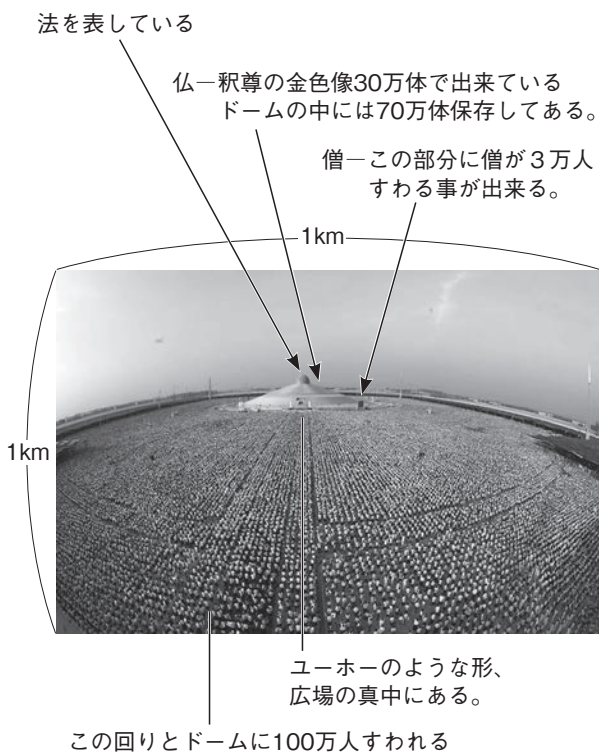
日本も、全体的、総括的には仏教国と呼べるが、その教えが生活に反映する状況は、この半世紀ですっかり姿を消してしまった。

仏教の教えでは、幸せになる為には、ある程度の財産なども必要であるが、その他に以下の三要因が欠かせない。

- ① 布施、この布施の目的は、お互いに助け合い、譲り合うことにある。
- ② 持戒、戒律を守る目的は、自分と他人を傷つけないことにある。

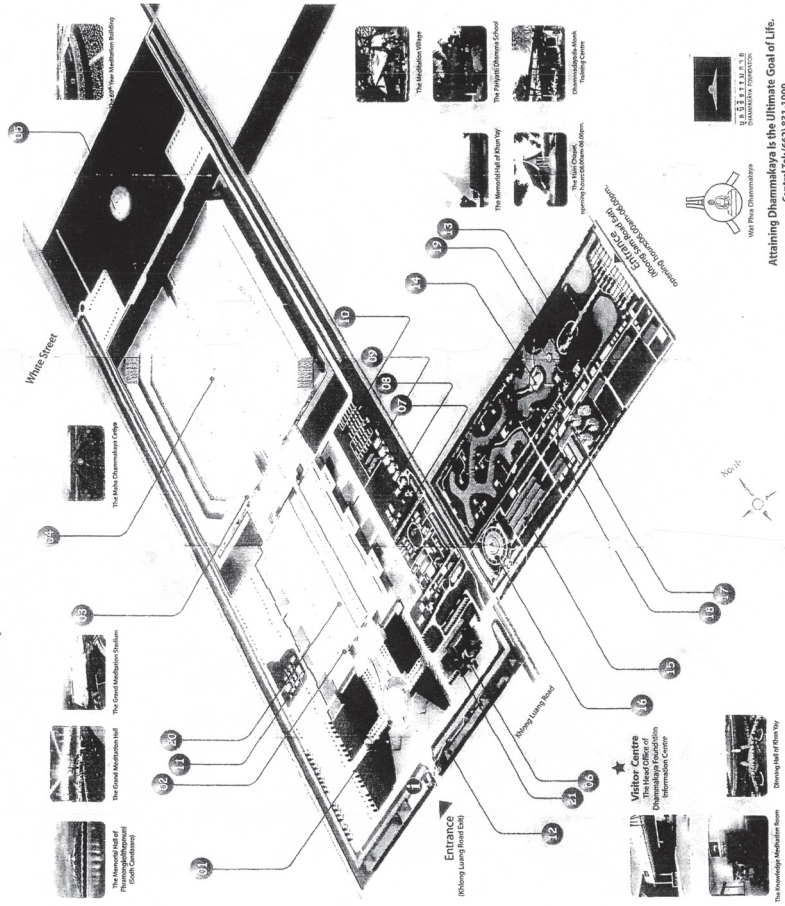
③ 瞑想、この目的は、心を安定させること、心が安定すれば自然的に清らかになる。

毎日シャワーを浴び汚れを落として体を清潔にするように、この三つを修習して、心の洗濯をし、心の平安をもたらす、同時に社会の平和をもたす。仏教徒に限らず全人類に共通する普遍的なものである。立ち振る舞いに於て常に功德と波羅蜜を心掛け瞑想して法身に至ることである……と云う。



※少し古いが、二〇〇六年（株）東信堂出版、矢野秀武（当時、東大大学院人文社会科学系研究科特任研究員）著の「現代タイにおける仏教運動」―タンマガーイ式瞑想とタイ社会の変容―（五六〇〇円）は大変詳しく参考となる。

Map, Activities of Phra Dhammakaya Temple and Dhammakaya Foundation



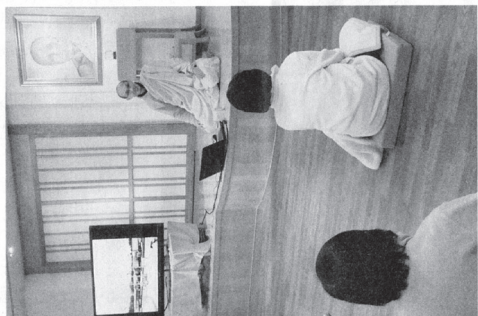
- 1 The Memorial Hall of Phramongkolthitsiphuni (Soli Chardakiro) This is where people gather every Sunday to pray, learn and practice meditation. On the other hand, the golden pyramid-shaped chapel is used for the Buddhist Dhamma teaching program, starting at 07:30 pm.
- 2 The Dhammakaya Meditation Hall This is where people gather every Sunday to pray, learn and practice meditation. On the other hand, the golden pyramid-shaped chapel is used for the Buddhist Dhamma teaching program, starting at 07:30 pm.
- 3 The Grand Meditation Stadium This is where people gather every Sunday to pray, learn and practice meditation. On the other hand, the golden pyramid-shaped chapel is used for the Buddhist Dhamma teaching program, starting at 07:30 pm.
- 4 Maha Dhammakaya Cetiya The dome-shaped pagoda is adorned with 300,000 gold-plated bronze Buddha images on the outer sphere. Inside, it has spaces for enshrining 750,000 such images.
- 5 The 60th Year Meditation Building
- 6 The head office of the Dhammakaya Foundation
- 7 The Meditation Village
- 8 The Pariyatti Dhamma School
- 9 Dhammadayada - Monk Training Centre
- 10 Novice Residence
- 11 Phra Kalyanamitra conference centre
- 12 The International Buddhist Society (IBS)
- 13 The Main Chapel
- 14 The Memorial Hall of Master Nun Chand Khomkoyong The golden pyramid-shaped chapel is where the solid gold statue of Master Nun Chand Khomkoyong, founder of the temple and Dhammakaya meditation teacher, is enshrined.
- 15 The Thatched Meditation Hall
- 16 The Master Nun Chand's Refectory The Master Nun Chand Khomkoyong's Refectory is a guided temple tour fee of charge, starting at 1:30 pm on Saturdays.
- 17 Monk's Residence
- 18 Tuete Pavilion
- 19 Catummaharajika Pavilion
- 20 The Sun of Peace exhibition This innovative multimedia exhibition is located at Pillay PG at the Dhammakaya Meditation Hall. It's open to visitors every Sunday at 11:00-13:30 am. Tel: (662) 881-2240 up to 2



Attaining Dhammakaya is the Ultimate Goal of Life.
 Central Tel: (662) 831-1000

瞑想で心の“ケア”を

ストレス抱える日本人対象に
タンマガーン寺院日本別院
毎水曜日に瞑想会



瞑想には「集中・安定・リラック
クス」が重要と説明

東京都豊洲区のタンマ
ガーン寺院日本別院が、
毎週水曜日に瞑想会を開

いている。回数は多めの
上野区妙善院で、別院
は日本在住のタイ人が母
国をめぐりさまざまな
活動として活用されて
いる。来日したタイ人僧
侶が日本のストレスの

多き直に、瞑想で心
の平和を実現できれば
と、昨年から日本人を
対象に瞑想会を開く。悩
みを抱える人やタイ文化
に興味を持った人が参
加し始めている。

瞑想の師は僧侶がやり
方を指導。右足に右足を
乗せる。脚離れ、左手
に左手を置く。だが重
要なのは形ではなく「真
中・安定・リラックスの
三」。瞑想は苦しい修行

ではないと、僧侶のア
ラタカウツ・ティッサ
ローは強調した。そ
し、呼吸を数え、約4分
間瞑想を行う。この瞑想
会は今回は10回。充実
した瞑想会までは訓練
が必要と、別院では15
回参加を2区切りとして
いる。もっと参加してい
るふたり、10回目から
は単に体験を味わうに
行っている。

瞑想は、ティッサロ
ーさんや僧侶と茶を飲
みながら話。参加者が
なかなか集中できな
い、姿はいろいろ。な
状態のかじった疑問
がぶらばら。ティッサ
ローさんは、自分も初
めて瞑想をした時、に
はふじが断れなかった
なうは練習をしながら
「二」の疑問に答えて
いた。

瞑想は、あまり積極
的に広報していないた
め、参加者はタイ人の
多い。タイ文化に

関心のある人だ。別
院では毎月第3日曜にタ
イ料理の作りか、教文
化を紹介する教室も開
き、日々交流を続けて
いる。

10月1日は宮崎真気
仙流師範日本文化発展
事業を執行。タイ
での舞臺演出の際には
災害を懸念し、多くの
僧侶が仏壇の行末し
ており、東日本震災で
も舞臺は壊れ、被災者の

心のケアが僧侶としての
務めでもあるとしている。

ティッサローさんは
「日本は戦争もなく治安
も良いが、ストレスを結
束している人が多い。瞑
想しただけではまだい
で、真の平和はつなげ
ば」と話している。

瞑想会は隔月午後
1時。会場の別院は
(荒川区荒川:078-5)

はJR「三河駅」から
徒歩5分。電話:03-5
604-0000。

(有馬菜穂)